スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

OFFICIAL NEWS LETTER

J.LEAGUE

31 Mar. 2014 Vol.215

J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

待望のリーグ戦が開幕した。写真左はＪ１のC大阪 vs 広島、右上はＪ２の岐阜 vs 讃岐、右下はＪ３の琉球 vs Ｊリーグ・アンダー22選抜

2014シーズンのリーグ戦が開幕

Ｊリーグ ディビジョン１、Ｊリーグ ディビジョン２に続き、明治安田生命Ｊ３リーグ、Ｊリーグヤマザキナビスコカップもスタート

ファン・サポーター待望の２０１４シーズンが開幕した。3月1、2日にＪ１リーグ戦、同2日にＪ２リーグ戦が幕を開け、新たに創設された明治安田生命Ｊ３リーグも同9日に戦いの火ぶたを切った。さらに、同19日には２０１４Ｊリーグヤマザキナビスコカップの予選リーグもスタート。積極的な補強でチーム力アップを図ったクラブが全国的な話題を集め、新たなステージに上がったクラブのホームタウンでは期待が大きく膨らんでいる。約9カ月に及ぶ長い戦いには、どのような結末が待っているのか。日本中を興奮と感動で包むＪリーグの戦いは、今シーズンも目が離せない。(2～3ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee　Canon　KONAMI　AIDEM　Coca-Cola　JCB　明治安田生命

J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER: 朝日新聞
J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER: 東京エレクトロン
LEAGUE CUP SPONSOR: ヤマザキナビスコ
SUPER CUP SPONSOR: FUJI xerox
J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER: adidas
J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER: スカパー!
SPORTS PROMOTION PARTNER: toto
J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER: ぴあ

J3 LEAGUE™ TITLE PARTNER: 明治安田生命
J3 LEAGUE™ OFFICIAL PARTNERS: adidas　JAPAN AIRLINES
J3 LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER: スカパー!
SPORTS PROMOTION PARTNER: toto

編集・発行 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

2014シーズン開幕 各地の表情

スタジアムに熱気と笑顔が戻ってきた

J1リーグ戦開幕。選手を乗せたバスを迎えるサポーターの熱気に寒さも吹き飛ぶ（写真左、等々力陸上競技場）。スタンドでは一足早くサクラが満開（写真右、ヤンマースタジアム長居）

3月1、2日に開催されたJ1リーグ戦の開幕ゲームは、9試合中5試合が雨の中で行われたにもかかわらず、計17万2931人の入場者を集め、1試合平均は1万9215人を記録した。開幕戦の平均入場者が1万9000人を超えたのは5年ぶりで、ファン・サポーターの期待と関心の高さをうかがわせた。

四国初のJ1クラブとなった徳島ヴォルティスのホーム開幕戦は同8日の第2節。ウルグアイ代表で前回のFIFAワールドカップ最優秀選手のFWフォルランが鳴り物入りで加入したセレッソ大阪を、鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアムに迎えた一戦には1万2202人の入場者が詰め掛け、2011シーズンのJ2リーグ戦第37節、サガン鳥栖戦以来となる1万人超えの盛況だった。

一方、J2では、ラモス瑠偉監督が就任し、GK川口能活、MF三都主アレサンドロらを加えて注目が高まるFC岐阜が、期待に応えてチーム史上初となる連勝発進。開幕のカマタマーレ讃岐戦（2日）は、ホームゲーム最多入場者記録（1万1719人）に迫る1万1069人が見守った。初めてJリーグの舞台で戦う讃岐のホーム開幕戦は第2節（9日）。強豪のジュビロ

四国初のJ1クラブとなった徳島のホーム開幕戦。名物の阿波おどりがスタジアムの盛り上げに一役買った

甲府の開幕戦は、異例の大雪の影響によって国立競技場での開催となった

開幕戦は雨に見舞われた会場もあったが、この日を待ったサポーターは何のその

JR鳥栖駅では、駅員も鳥栖の青のユニフォームに身を包んでファン・サポーターをお出迎え

広島のホーム開幕戦では、勇壮なよろいかぶと姿の武者たちが「王者」の出陣に駆け付けた

© J.LEAGUE PHOTOS

J.LEAGUE™ DIVISION 2

注目が高まる岐阜の試合を見ようと、スタジアムを目指して長蛇の列

雪が残る中を札幌のホーム開幕戦に向かうファン・サポーター

今シーズンのハットトリック第１号となったのは松本のFW船山（中央）。開幕の東京Ｖ戦で

初めてＪリーグの舞台で戦う讃岐。スタンドからの熱気が選手たちを鼓舞する

明治安田生命 J3 LEAGUE™

Ｊ３でも熱気あふれるダービーマッチ。第２節で相模原とYS横浜が対決した

2011年３月に起きた東日本大震災と栄村大地震の復興支援試合として行われた長野 vs 福島

Ｊ３第１号ゴールを挙げた町田の遠藤（右）に記念のパネルを贈呈。左はＪリーグの大河正明常務理事

Ｊ３開幕戦で沖縄を訪れ、あいさつするＪリーグの村井 満チェアマン

磐田を迎えたということもあり、入場者は昨シーズンまでのＪＦＬ時代にはなかった1万人超え（1万421人）を実現した。

また、明治安田生命Ｊ３リーグは同9日、Ｊリーグ・アンダー22選抜を含む12チームで開幕。第1節のＦＣ町田ゼルビア vs 藤枝ＭＹＦＣの1分に、町田のMF遠藤敬佑が決めた得点が記念すべきＪ３第1号ゴールとなり、第2節の町田 vs 長野の前に記念のパネルが贈呈された。

2014 Jリーグ ヤマザキナビスコ カップ も開幕

２連覇を狙う柏（黄）は浦和に逆転勝ちで白星発進

■予選リーグ組み分け 3月19日～6月1日（日）

Aグループ	仙台、鹿島、F東京、清水、G大阪、神戸、鳥栖
Bグループ	浦和、大宮、柏、甲府、新潟、名古屋、徳島

■決勝トーナメント

準々決勝 第1戦：9月3日（水）／第2戦：9月7日（日）
準決勝 第1戦：10月9日（木）／第2戦：10月12日（日）
決　勝 11月8日（土） 会場：埼玉スタジアム２００２

リーグ戦に続いて、リーグカップ戦の２０１４Ｊリーグヤマザキナビスコカップも開幕し、3月19日に予選リーグ第1節が行われた。大会は1992年に始まり、今大会が22回目の開催（95年は開催なし）。昨年3月に、同一企業の協賛で最も長く開催されたプロサッカーリーグの大会としてギネス世界記録に認定されている。

大会はＪ１リーグの18チームによって争われる。ＡＦＣチャンピオンズリーグ２０１４に出場する川崎フロンターレ、横浜Ｆ・マリノス、セレッソ大阪、サンフレッチェ広島は予選リーグを免除され、準々決勝からの出場。残る14チームが7チームずつ2グループに分かれて1回戦総当たりリーグ戦を実施し、各グループの上位2位までが準々決勝に進出する。ことしの決勝は11月8日（土）、埼玉スタジアム２００２で開催されることが決まった（キックオフ時刻は決定次第発表）。

恒例の「ニューヒーロー賞」表彰、「ナビスコキッズイレブン クラブといっしょにファイナルを目指そう!!」のイベントも行われる。

大会のメインビジュアル。決勝の地が変わる節目で、あらためて原点に立ち返り、参加クラブのフラッグをレイアウト

TOPICS トピックス（2月26日～3月23日）

※各項目の詳細については、Jリーグ公式ホームページ（http://www.j-league.or.jp）を参照

ホームゲームにおける差別的な内容の横断幕掲出に対し浦和レッズに制裁を決定

Jリーグの村井 満チェアマンは、3月8日に開催されたJリーグ ディビジョン1第2節「浦和レッズ vs サガン鳥栖」において、差別的な内容の横断幕が掲出されたことに対し、裁定委員会からの答申を踏まえ、以下のとおり制裁を決定した。

制裁内容	
1. 対象行為	2014年3月8日16：00キックオフ、埼玉スタジアム２００２で行われた、Jリーグディビジョン1第2節「浦和レッズvsサガン鳥栖」の試合において、浦和レッズサポーターにより「JAPANESE ONLY」という差別的な内容の横断幕が、ホーム側ゴール裏席に向かう入場ゲート上コンコースに向けて掲出された。横断幕の掲出は、14～15時の間から試合終了後まで続いた。
2. 制裁内容	（1）けん責（始末書をとり、将来を戒める） （2）無観客試合の開催（入場者のいない試合を開催させる） ※対象試合：Jリーグディビジョン1第4節 浦和レッズ vs 清水エスパルス 2014年3月23日 15：00キックオフ（埼玉スタジアム２００２）
3. 制裁の理由	浦和レッズは、スタジアム内において不適切な内容が書かれた横断幕が掲出されたにもかかわらず、試合終了後まで当該横断幕を撤去できなかった。当該横断幕の記載内容は「JAPANESE ONLY」であり、差別表現と受け止めた方もいることから、その掲出意図にかかわらず差別的内容と判断できる。 国際サッカー連盟（ＦＩＦＡ）は、2013年5月の総会で「反人種差別・差別に関する戦い」について決議し、同年7月にはＦＩＦＡ加盟各国協会に対してガイドラインを提示するとともに、関連する規程を整備するなどの適切な対処を求めている。これに対し、日本サッカー協会（ＪＦＡ）は同年11月に規程を整備するとともに、ＪＦＡ加盟団体に対しても周知徹底している。これを受け、Jリーグにおいても、Jリーグ所属クラブに対する周知徹底を行ったり、トラブル事案が起こった際のマッチコミッショナーの手続きを定めたり、ＦＩＦＡなどにおける判例を調査し各クラブに周知するなどの対策を実施している。 浦和レッズは10年に、サポーターが本件と類似したトラブルを起こしたことによって制裁を受けており、本件は累犯となる。また、10年に制裁を受けた事実以外にも、浦和サポーターはこれまでもたびたびトラブルを起こしている。浦和は、過去にサポータートラブルの件でJリーグから再三の制裁を科されているにもかかわらず、本件のような結果に至った責任は非常に重大である。
4. 適用条項	① Jリーグ規約第3条〔遵守義務〕第1項、第4項、第5項 ② Jリーグ規約第51条〔Jクラブの責任〕第2項、第3項 ③ Jリーグ規約第141条〔チェアマンによる制裁および調査〕第1項 ④ Jリーグ規約第142条〔制裁の種類〕第1項第1号、第4号

参考：Jリーグ規約第142条〔制裁の種類〕第1項

（1）Jクラブに対する制裁の種類は次のとおりとし、これらの制裁を併科することができる。

①けん責…始末書をとり、将来を戒める／②制裁金…1件につき1億円以下の制裁金を科す／③中立地での試合の開催…試合を中立地で開催させる／④無観客試合の開催…入場者のいない試合を開催させる／⑤試合の没収…得点を3対0として試合を没収する／⑥勝点減…リーグ戦の勝点を1件につき15点を限度として減ずる／⑦出場権剥奪…リーグカップ戦における違反行為に対する制裁として次年度のリーグカップ戦への出場権を剥奪する／⑧下位ディビジョンへの降格…所属するディビジョンより1つ以上下位のディビジョンに降格させる／⑨除名…Jリーグから除名する（ただし、総会において正会員現在数の4分の3以上の多数による議決を要する）

浦和レッズへの制裁に対する村井チェアマンコメント

3月8日に埼玉スタジアム２００２で開催された試合における、一部のサポーターによる差別と受け止められかねない行為に対し、まずはJリーグを統括するチェアマンとして大変遺憾に存じます。そして今回、不快な思いをされた皆さま、日本サッカー界の地位向上を目指して日頃よりJリーグを支えてくださっている皆さま、そして応援してくださっている皆さまに、深くおわび申し上げます。

私は本件を大変重く受け止めており、ホームクラブである浦和レッズに対して今回、厳しい制裁内容を裁定委員会に諮問しました。そして同委員会から当該制裁内容が相当であるとの答申を受け、本日の制裁を最終決定するに至りました。

1月のチェアマン就任から今シーズンの開幕までの期間、私はまず、ピッチ内外のフェアプレーの徹底を指針として掲げ、皆さまにその思いを繰り返しお伝えしてまいりました。加えて、新しいお客さまに一人でも多くスタジアムにいらしていただき、Jリーグをご覧いただく必要性も再確認してまいりました。この「新しいお客さま」の中には、年齢の差や男女の別、もちろん国籍も関係ないという考えを当然に含んでおります。

どの行為が差別的であるかということに関しては、さまざまな受け止め方があると思います。しかし大切なことは、その行為を行った側がどういう考えに基づいていたのかということではなく、受け手がどのように感じたかということに目を向けるべきであると思っています。この意味で、今回の行為は差別的な行為であったと考えざるを得ません。この数日間のメディアやインターネット上での露出状況のほか、この行為の反響が海外にも波及していることから見て、社会的影響は想像以上に大きく、Jリーグおよび日本サッカー界全体のブランドイメージを大きく毀損していることは、もはや明白であると思います。

今回の行為は、私が就任当初から申し上げていたフェアプレーの精神に逆行した事象です。子どもたちに夢を届け、フェアなスポーツマンシップの見本になるべきはずのJリーグにおいて、今回のような事態が発生することは看過できません。安心・安全で快適なスタジアム運営を目標に掲げるJリーグのスタジアムが危険で怖い場所というイメージになってしまうことは、絶対に避けなければならないことです。

浦和に関しては、過去においても一部のサポーターによるトラブルが複数発生しており、その中には人種差別的な行為と認定され、クラブが制裁を受けたこともありました。大半の浦和のサポーターも、この一部サポーターの行為に対してきっと心を痛めていることでしょう。1993年の開幕当初からJリーグに名を連ね、日本プロサッカー界のリーダー的存在であるべき浦和が、一部のサポーターの行為とはいえ、このような事態を許してしまったことに対して、誠にざんきの念に堪えません。

浦和には、今回の制裁内容を従来にも増して重く受け止め、再発防止の徹底に努めるよう強く求めました。JリーグやJクラブに関わる全ての関係者、ファン・サポーターの方々と共に、今回の事象をきっかけにJリーグのこれからのあるべき姿を今一度、見つめ直していきたいと思います。

フェアで世界に誇れるJリーグ。それは、Jリーグを愛する人たち全員で築いていかねばなりません。今日からあらためて、Jリーグのイメージの回復に努めてまいります。皆さまのお力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。

差別的な内容の横断幕掲出に対するJリーグからの制裁を受けて、3月23日に埼玉スタジアム２００２でJ1リーグ戦第4節、浦和レッズ vs 清水エスパルスが無観客試合として開催された（写真）。当日は正午から午後7時まで埼玉スタジアム公園への入場が禁じられた。キックオフ前には、この試合に登録された浦和の18選手がピッチに整列し、キャプテンの阿部勇樹が差別撲滅宣言を読み上げた。

2013（平成25）年度決算について

Jリーグは3月12日に開催した総会で、2013（平成25）年度の公益社団法人 日本プロサッカーリーグの決算を承認した。

単位：百万円

科 目	2013予算（A）	2013決算（B）	差額（B−A）
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
受取入会金	0	0	0
受取会費	1,171	1,171	0
協賛金収益	3,814	3,677	▲137
Jリーグ主管試合入場料収益	270	339	69
放送権料収益	4,800	4,650	▲150
商品化権料収益	545	723	178
その他	1,038	1,064	26
経常収益計	11,638	11,625	▲14
（2）経常費用			
① 事業費	11,280	11,660	380
リーグ運営経費	2,680	2,512	▲168
クラブへの配分金	6,809	7,330	520
その他	1,790	1,818	28
② 管理費	328	349	21
経常費用計	11,608	12,009	401
当期経常増減額	30	▲385	▲415
2. 経常外増減の部			
（1）経常外収益	0	93	93
（2）経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	93	93
当期一般正味財産増減額	30	▲291	▲322
一般正味財産期首残高	1,903	1,903	0
一般正味財産期末残高	1,933	1,611	▲322
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	26	26
一般正味財産への振替額	0	▲16	▲16
当期指定正味財産増減額	0	10	10
指定正味財産期首残高	0	10	10
指定正味財産期末残高	10	20	20
Ⅲ 正味財産期末残高	1,933	1,631	▲302

※四捨五入により、合計が合わない場合があります。

マーケティング委員会

Jリーグは3月18日に開催した理事会で、マーケティング委員会の委員長および委員を、Jリーグ規約および専門委員会規程に基づき、以下のとおり選任した。

マーケティング委員会					敬称略
委員長	中西 大介				
委 員	鈴木 秀樹	小牧 次郎	秦 英之	町田 光	望月 祐志
	北島 秀昭	小西 孝生	鈴木 徳昭	出井 宏明	

【任期】2014年3月1日～2016年1月31日

FIFA EWS社からの警報へのJリーグの対応について

Jリーグは3月10日、世界の違法なスポーツ賭博による「試合操作」（審判、選手の買収など）の可能性を検出して警告するEWS（Early Warning System）を運営するＦＩＦＡ EWS社（100％ＦＩＦＡ出資会社）より、スポーツ賭博市場動向の監視リポートを受け取り、対応した。同リポートの内容は、同8日に行われたJ1リーグ戦第2節のサンフレッチェ広島 vs 川崎フロンターレに対する賭け方に「小さな異常値」が見られたというもの。これに対し、Jリーグは関係者などから事情を聴くなど速やかに調査を開始。その結果、不正行為およびその働き掛けの形跡は一切なく、不正は行われなかったとの判断に至った。同17日にはＦＩＦＡ EWS社からも「当該試合への不正な関与がなかったと思われる」旨の最終リポートが届いた。

２０１４シーズンのプロモーションとして『キャプテン翼』とのコラボレーション

Ｊリーグは、２０１４シーズンのプロモーションの一環として、人気マンガ『キャプテン翼』（原作・高橋陽一、集英社「グランドジャンプ」にて連載中）とコラボレーションを実施する。企画の第一弾として、『キャプテン翼』の象徴的な必殺のシュートシーンをＪリーグ選手が再現するコラボプロモーションビデオ「Ｊリーグ×キャプテン翼 DREAM SHOOT」をインターネット上で配信（http://www.dreamshoot.net）。『キャプテン翼』内で登場する必殺シュートシーンに、現役のJリーグ選手たちが挑戦することで、選手たちのレベルの高さを感じてもらう。

2014年Ｊリーグ百年構想パートナー／スポーツ振興パートナー契約決定

Ｊリーグは、朝日新聞社と2014年のＪリーグ百年構想パートナー契約を、また、独立行政法人 日本スポーツ振興センターと同年のスポーツ振興パートナー契約を締結することを決定した。

カテゴリー／契約社名	契約期間
Ｊリーグ百年構想パートナー	
朝日新聞社	2014.1.1~2014.12.31（2003~ 継続）
スポーツ振興パートナー	
独立行政法人 日本スポーツ振興センター	2014.2.1~2015.1.31 （2003~ 継続）

※他のＪリーグオフィシャルパートナーについては、「Ｊリーグニュース」213号で既報。

２０１４シーズンも「コカ・コーラ Ｊリーグ 月間MVP」を選定

Ｊリーグは昨年に続き、Ｊリーグトップパートナーである日本コカ・コーラ株式会社（東京都港区／代表取締役社長ティム・ブレット）と共に、各月のリーグ戦（Ｊ１、Ｊ２）において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Ｊリーグ 月間MVP」を選定する。サッカー専門メディアとＪリーグ選考委員会による選考で、Ｊ１、Ｊ２のMVPにはそれぞれ賞金30万円、20万円が贈られる。なお、今シーズンは Ｊリーグ特任理事の宮本恒靖氏を選考委員に迎え、元選手の視点を加えて多角的に選定する。

２０１４シーズンも「月間ベストゴール」「年間最優秀ゴール賞」を選定

Ｊリーグは昨年に続きＪ１リーグ戦で、Jリーグオフィシャルブロードキャスティングパートナー「スカパー！」の協力を得て、第1～34節での全得点を対象に、「月間ベストゴール」（ファン・サポーターによるインターネット一般投票、スポーツ・サッカーメディア関係者、Ｊリーグ選考委員による選考）、および「年間最優秀ゴール賞」（Ｊリーグチェアマンをはじめとする表彰選考委員会による選考）を選定する。「年間最優秀ゴール賞」は12月に開催する、２０１４ Ｊリーグアウォーズで表彰する。

また、Ｊ２はファン・サポーターによる一般投票のみにより、リーグ戦における各節ごとのノミネートゴールおよび月間ベストゴールを決定（昨年同様）。Ｊ２最優秀ゴール賞は、全ての月間ベストゴールを対象に一般投票を行い、最多得票のゴールが同賞を受賞し、Jリーグアウォーズ式典前に開催する「サポーターステージショー」で発表・表彰する。

ファン・サポーターによる一般投票は、Ｊリーグ公式ホームページ（http://www.j-league.or.jp）を通じて可能。

～DO! ALL SPORTS～ Jリーグの理念を推進する新たなキャッチフレーズが誕生

Ｊリーグは1993年の発足以来、サッカーを通してあらゆるスポーツを老若男女が楽しめる豊かな国を目指したいという思いから、「Ｊリーグ百年構想 ～スポーツでもっと幸せな国へ。～」というスローガンを掲げてスポーツ振興に取り組んでいる。

Ｊリーグはことし、この「Ｊリーグ百年構想」をより多くの人々に、より身近に分かりやすく伝えていくために、スポーツへのさまざまな関わりを表現した「DO！ ALL SPORTS」というキャッチフレーズを掲げた。あらゆるスポーツを行う（Play Sports）だけでなく、スポーツを見る、語る、応援するといった、生活の場に根付いたスポーツとの関わりを推進することで、豊かなスポーツ文化の醸成を目指していく。

ファミリーJoinデイズ 4月26日（土）～5月6日（火・休） Ｊ１・Ｊ２リーグ戦各試合会場で開催

Ｊリーグは、4月26日（土）から5月6日（火・休）までのＪ１・Ｊ２リーグ戦を対象に、試合前後に家族で楽しめるイベントが満載の「Ｊリーグファミリー Ｊｏｉｎ デイズ」を開催する。各クラブのイベントなどについては、今後各クラブから順次発表されるほか、4月中旬にはＪリーグより全クラブのイベント詳細を発表する。

法務省人権啓発活動への協力

Ｊリーグは、法務省の人権擁護機関および、地方公共団体が推進する人権啓発活動ネットワーク協議会と連携・協力した人権啓発活動に、Ｊリーグ全51クラブと連携して協力する。Jリーグは法務省と2007年より連携・協力した人権啓発活動を実施している。

「朝日新聞サッカースクール」を後援

Ｊリーグは3月18日に開催した理事会で、今年度も「朝日新聞サッカースクール」（主催：朝日新聞社）を後援することを決定した。同活動は、Ｊリーグ百年構想パートナーの朝日新聞社が、地域のスポーツ活動活性化の一環として取り組んでいるもので、例年通り各Ｊクラブの協力で開催するスクールと、元サッカー日本代表選手を招いて開催するスクールが行われる。2014年度は、全国各地で約90回の開催が予定されている。

第28回全国少年少女草サッカー大会を後援

Ｊリーグは3月18日に開催した理事会で、2014年8月15日（金）～19日（火）に静岡県の37グラウンドで開催される「第28回全国少年少女草サッカー大会」（公益財団法人 日本サッカー協会などが主催予定）を後援することを決定した。本大会は、スポーツの力で未来を育む「Jリーグ百年構想」と同じ理念のもと、全国のサッカー少年少女にプロ選手との交流、合宿、交流戦の機会を提供することを目的とする。

Photo Topics

カーボン・マーケット EXPO 2014

ＪリーグおよびJクラブは、環境省とカーボンオフセットフォーラムが主催し、Jリーグが後援した「カーボン・マーケット EXPO 2014」（3月4日、東京国際フォーラム 展示ホール1）に、昨年に続いて「Ｊリーグブース」（写真）を出展した。同会場では第3回カーボン・オフセット大賞経済産業大臣賞を受賞したセレッソ大阪の表彰、コンサドーレ札幌の野々村芳和代表取締役社長とC大阪の森島寛晃アンバサダーによるトークセッションなども行われた。

Ｊリーグ開幕PRイベント

写真提供：岐阜県東京事務所

Ｊリーグは2月28日～3月14日、Ｊクラブと都道府県東京事務所（東京都千代田区）との共同で、Ｊリーグ開幕PRイベントを実施した。43の都道府県とJクラブに加え、ＪＦＬや地域クラブが参加し、Ｊリーグ、クラブ、都道府県が一体となってリーグ加盟クラブを有する都道府県をPR。各都道府県事務所前のショーウインドウ（写真）や地下通路PRコーナーには、ポスターや各クラブが提供したユニフォームをはじめとするグッズ、地域紹介のパンフレットなどが展示された。

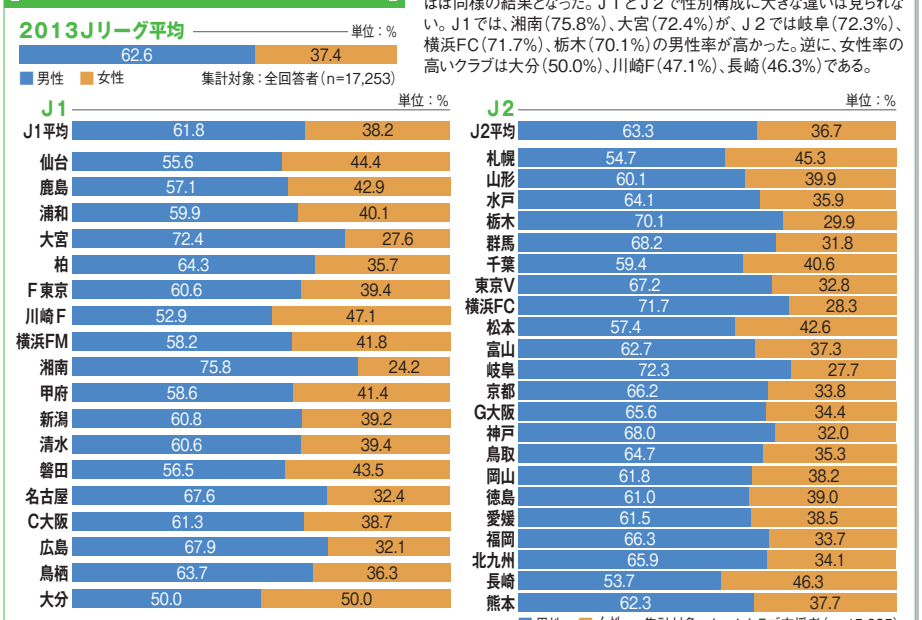
Ｊリーグスタジアム観戦者調査 2013

Ｊリーグは２０１３シーズンに実施した「スタジアム観戦者調査」の集計結果を発表した。同調査は、リーグ戦に来場した観戦者の動向を把握するため、2001年から継続的に実施している。全結果は、Ｊリーグ公式ホームページ（http://www.j-league.or.jp）で閲覧できる。

調査時期	2013年4月21日～10月27日
調査対象	スタジアム観戦者、11歳以上の男女個人
調査方法	スタジアム内における集合配布法を用いた質問紙調査法
回収状況	有効回収数 17,286票（Ｊ１：7,687票　Ｊ２：9,599票）
協力	仲澤　眞（筑波大学体育系准教授）／原田宗彦（早稲田大学スポーツ科学学術院教授）／藤本淳也（大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科教授）／高橋義雄（筑波大学体育系准教授）
実査協力	岩村 聡（東日本国際大学特任講師）／福田拓哉（新潟経営大学経営情報学部スポーツマネジメント学科准教授）／井上尊寛（法政大学スポーツ健康学部助教）／長倉富貴（山梨学院大学経営情報学部経営情報学科准教授）／荒深裕規（日本福祉大学社会福祉学部客員准教授）／大野貴司（岐阜経済大学経営学部准教授）／吉田政幸（びわこ成蹊スポーツ大学競技スポーツ学科准教授）／高岡敦史（岡山大学スポーツ教育センター助教）／行實鉄平（徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授）／南　博（北九州市立大学都市政策研究所准教授）／坂元康成（佐賀大学文化教育学部教授）／隅野美砂輝（鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系講師）／竹田隆行（日本文理大学経営経済学部スポーツビジネスコース准教授）

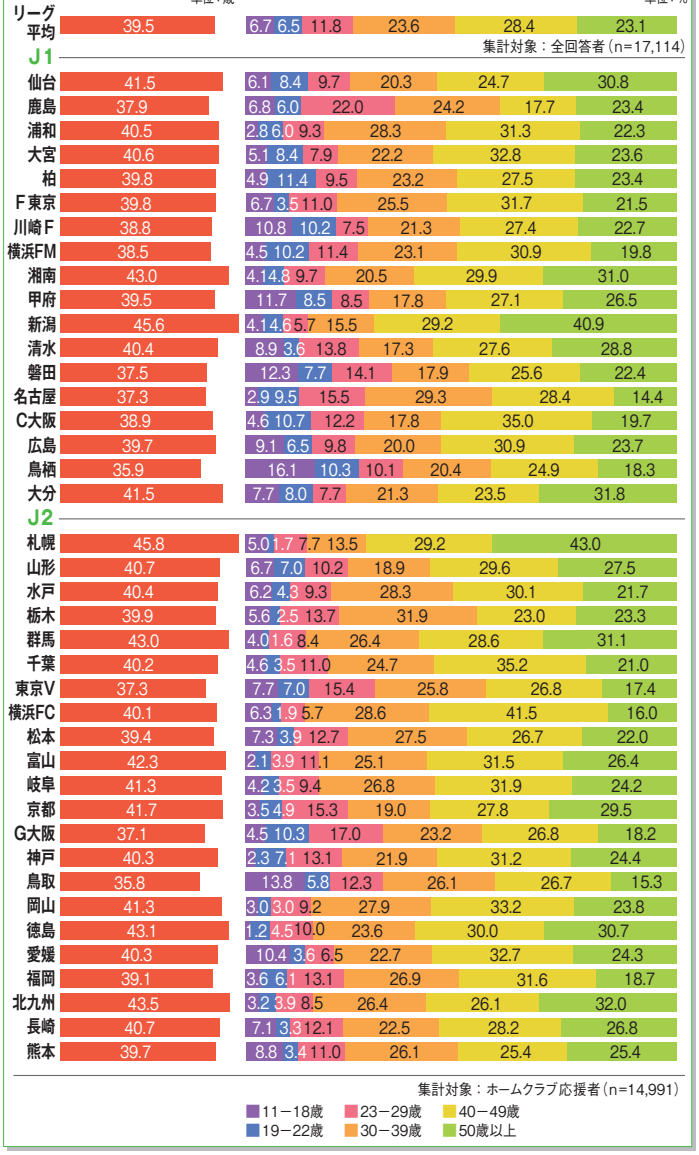
性別

観戦者の性別をリーグ全体で見ると、男性62.6%、女性37.4%で、例年とほぼ同様の結果となった。Ｊ１とＪ２で性別構成に大きな違いは見られない。Ｊ１では、湘南（75.8%）、大宮（72.4%）が、Ｊ２では岐阜（72.3%）、横浜FC（71.7%）、栃木（70.1%）の男性率が高かった。逆に、女性率の高いクラブは大分（50.0%）、川崎F（47.1%）、長崎（46.3%）である。



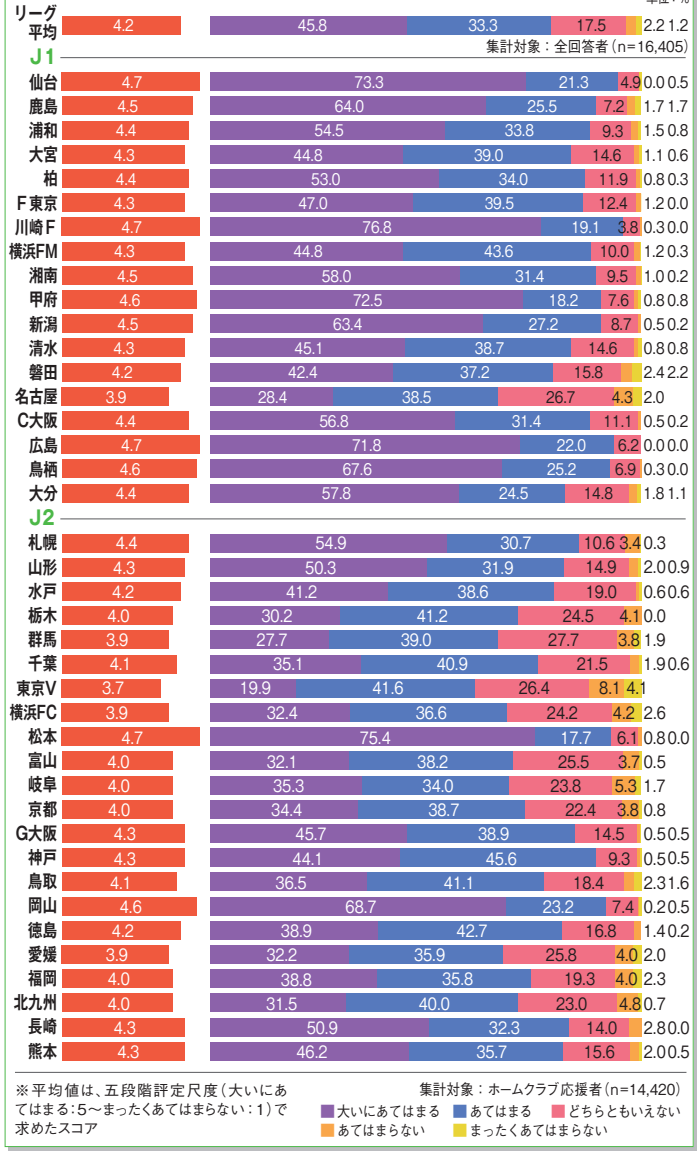
平均年齢・年齢分布

札幌（45.8歳）、新潟（45.6歳）、北九州（43.5歳）、徳島（43.1歳）、湘南（43.0歳）、群馬（43.0歳）で平均年齢が高かった一方、鳥取（35.8歳）、鳥栖（35.9歳）では低かった。



Ｊクラブは、ホームタウンで大きな貢献をしている

「Ｊクラブは、ホームタウンで大きな貢献をしている」という見解に対して、観戦者全体の79.1%（45.8%＋33.3%）が肯定的であった。クラブ別に見ると、仙台、川崎F、広島、松本が4.7ポイントと最も高く、次いで甲府、鳥栖、岡山（4.6）の観戦者に強く肯定する傾向が見られた。



※平均値は、五段階評定尺度（大いにあてはまる：5～まったくあてはまらない：1）で求めたスコア

居住地（活動区域・市区郡内訳）

全体の86.1%がホームタウンのある都道府県に居住していた。鹿島（58.8%）、G大阪（63.0%）、東京V（65.4%）では活動区域からの観戦者が低い傾向が見られ、札幌（99.2%）、新潟、岡山（97.7%）、長崎（97.3%）、熊本（97.1%）ではその反対の傾向が見られた。

リーグ平均　単位：%

活動区域内	活動区域外
86.1	15.9

J1　単位：%

	活動区域内	活動区域外	居住地（都道府県下詳細）上位3市区郡					
仙台	90.3	9.7	仙台市	64.0	黒川郡	4.2	大崎市	3.4
鹿島	58.8	41.2	鹿嶋市	7.8	水戸市	6.5	ひたちなか市	5.4
浦和	78.8	21.2	さいたま市	32.0	川口市	8.9	越谷市	3.7
大宮	85.3	14.7	さいたま市	48.8	川越市	3.8	上尾市	3.5
柏	75.5	24.5	柏市	38.7	流山市	6.7	松戸市	5.6
F東京	87.0	13.0	府中市	9.3	調布市	6.6	世田谷区	6.1
川崎F	83.1	16.9	川崎市	70.8	横浜市	6.8	横須賀市	1.1
横浜FM	75.9	24.1	横浜市	51.8	川崎市	4.7	相模原市	4.1
湘南	95.7	4.3	平塚市	39.5	藤沢市	9.5	茅ヶ崎市	8.4
甲府	91.6	8.4	甲府市	26.4	南アルプス市	10.6	笛吹市	8.2
新潟	97.7	2.3	新潟市	55.7	長岡市	7.8	三条市	6.9
清水	89.8	10.2	静岡市	44.8	富士市	7.5	焼津市	4.5
磐田	82.9	17.1	浜松市	30.1	磐田市	24.6	掛川市	8.0
名古屋	80.6	19.4	名古屋市	19.4	豊田市	14.9	岡崎市	3.4
C大阪	75.9	24.1	大阪市	31.6	堺市	12.2	東大阪市	3.2
広島	79.8	20.2	広島市	46.5	東広島市	7.0	福山市	5.9
鳥栖	66.6	33.4	佐賀市	24.1	鳥栖市	15.1	小城市	4.5
大分	96.1	3.9	大分市	68.4	別府市	9.3	佐伯市	3.9

J2　単位：%

	活動区域内	活動区域外	居住地（都道府県下詳細）上位3市区郡					
札幌	99.2	0.8	札幌市	71.4	旭川市	3.6	江別市	2.2
山形	93.3	6.7	山形市	30.3	天童市	14.7	鶴岡市	8.0
水戸	88.7	11.3	水戸市	31.3	日立市	15.6	ひたちなか市	6.4
栃木	91.6	8.4	宇都宮市	41.5	栃木市・真岡市	5.1	鹿沼市	4.1
群馬	89.1	10.9	前橋市	24.7	高崎市	11.9	伊勢崎市	10.6
千葉	84.5	15.5	千葉市	36.3	市原市	12.9	船橋市	4.7
東京V	65.4	34.6	八王子市	6.7	世田谷区	4.7	日野市	4.0
横浜FC	78.4	21.6	横浜市	60.2	川崎市	4.7	藤沢市	2.5
松本	94.9	5.1	松本市	42.6	安曇野市	11.0	塩尻市	10.7
富山	94.6	5.4	富山市	51.0	高岡市	12.1	射水市	8.5
岐阜	85.9	14.1	岐阜市	32.2	各務原市	8.4	関市	5.8
京都	80.2	19.8	京都市	54.1	宇治市	7.7	城陽市	5.1
G大阪	63.0	37.0	大阪市	12.3	吹田市	10.6	茨木市	8.2
神戸	91.9	8.1	神戸市	53.9	明石市	7.6	姫路市	6.1
鳥取	90.8	9.2	鳥取市	68.4	米子市	5.2	東伯郡	4.9
岡山	97.7	2.3	岡山市	63.3	倉敷市	13.0	玉野市	3.4
徳島	88.3	11.7	徳島市	46.2	板野郡	18.8	鳴門市	9.2
愛媛	94.2	5.8	松山市	45.5	西条市	11.6	伊予市	7.1
福岡	92.9	7.1	福岡市	51.1	糟屋郡	7.3	春日市	4.2
北九州	92.7	7.3	北九州市	73.4	遠賀郡	4.9	行橋市	3.1
長崎	97.3	2.7	長崎市	40.2	諫早市	22.1	南島原市	10.4
熊本	97.1	2.9	熊本市	60.1	菊池郡	7.8	上益城郡	6.8

集計対象：ホームクラブ応援者（n=15,007）

チームアイデンティフィケーション

観戦者のチームアイデンティフィケーションはとても強く、平均で4.20（5点満点）となっていた。J1では、浦和（4.51）、柏（4.50）に高い傾向、名古屋（3.97）に低い傾向が見られた。J2では、札幌（4.44）、福岡（4.40）に高い傾向、岐阜（3.86）、富山（3.88）、鳥取（3.89）に低い傾向が見られた。

リーグ平均	4.20
J1	
仙台	4.36
鹿島	4.35
浦和	4.51
大宮	4.07
柏	4.50
F東京	4.34
川崎F	4.17
横浜FM	4.31
湘南	4.38
甲府	4.16
新潟	4.32
清水	4.36
磐田	4.33
名古屋	3.97
C大阪	4.35
広島	4.31
鳥栖	4.05
大分	4.36
J2	
札幌	4.44
山形	4.15
水戸	3.99
栃木	4.01
群馬	4.07
千葉	4.28
東京V	4.20
横浜FC	4.18
松本	4.20
富山	3.88
岐阜	3.86
京都	4.01
G大阪	4.33
神戸	4.11
鳥取	3.89
岡山	4.28
徳島	3.97
愛媛	4.01
福岡	4.40
北九州	3.98
長崎	4.16
熊本	4.23

集計対象：ホームクラブ応援者（n=14,298）

※チームアイデンティフィケーションは、次の3項目の問いに対する答えを5段階評定尺度（大いにあてはまる：5～まったくあてはまらない：1）で求めたスコアの平均値
問1：自分のことを真のクラブファンだと思う
問2：もしクラブファンをやめなければならないとしたら、喪失感を味わうだろう
問3：クラブのファンであることは、とても重要である

平均観戦頻度（2011／2012比較*1）

年間平均観戦頻度は、J1観戦者が「10.8回」、J2観戦者が「13.0回」。J1では、浦和（18.1回）、柏（15.2回）の平均観戦頻度が、J2では、千葉（19.1回）、横浜FC（17.9回）、群馬（16.0回）の平均観戦頻度が高かった。J2の平均観戦頻度は年々増加する傾向が見てとれる（2010：11.6回、2011：12.5回）。

単位：回

	2012	2011
J1 平均	10.8	11.7
J2 平均	13.0	12.5

集計対象：J1全回答者（2012 n=7,329／2011 n=6,965）

集計対象：J2全回答者（2012 n=8,047／2011 n=7,912）

J1　単位：回

	2012	2011
札幌	9.8	12.3 *2
仙台	12.3	11.5
鹿島	11.3	11.3
浦和	18.1	15.7
大宮	14.8	14.4
柏	15.2	11.6
F東京	14.6	13.4 *2
川崎F	12.1	13.7
横浜FM	12.0	13.0
新潟	13.4	13.3
清水	11.8	11.4
磐田	11.9	12.4
名古屋	8.6	8.1
G大阪	6.5	15.1
C大阪	10.5	11.7
神戸	5.7	12.7
広島	8.4	10.6
鳥栖	8.3	9.5 *2

J2　単位：回

	2012	2011
山形	15.2	12.4 *3
水戸	12.4	12.0
栃木	13.1	12.8
群馬	16.0 *4	17.4
千葉	19.1	15.9
東京V	15.1	14.5
横浜FC	17.9	14.6
湘南	15.6	14.5
甲府	14.7	12.2 *3
松本	15.0 *5	
富山	12.3	10.8
岐阜	11.5	12.3
京都	14.2	12.6
鳥取	12.6	14.8
岡山	15.8	14.7
徳島	12.9	13.9
愛媛	12.2	12.9
福岡	12.6	11.0 *3
北九州	12.1	11.2
熊本	14.6	14.8
大分	12.7	16.5

集計対象：J1ホームクラブ応援者（2012 n=6,616／2011 n=6,288）
*1 2013シーズンの調査対象による2012シーズン観戦実績と、2012シーズンの調査対象による2011シーズン観戦実績を比較
*2 札幌、F東京、鳥栖は2011シーズン、J2に所属

集計対象：J2ホームクラブ応援者（2012 n=7,295／2011 n=6,374）
*1 2013シーズンの調査対象による2012シーズン観戦実績と、2012シーズンの調査対象による2011シーズン観戦実績を比較
*3 山形、甲府、福岡は2011シーズン、J1に所属
*4 呼称変更に伴い表記を群馬に統一
*5 松本は2012シーズンよりJリーグ入会

Voice

「Jリーグっていいな」と言えるように

財徳 健治（ざいとく けんじ）

PROFILE

1948年、広島県生まれ。広島修道高校、慶応大学ソッカー部でプレー。74年に産経新聞大阪本社入社。サンケイスポーツに配属され、プロ野球、サッカーを担当。84年、東京新聞に移籍、サッカーを中心にスポーツ取材に従事し、運動部長、編集委員を歴任。2013年12月、同社退社。

ワールドカップ・イヤーでもある、待ち焦がれたシーズンが始まった。あれこれと来し方を振り返り、新しい力のみなぎるリーグの楽しみ方を…と考えていたところへ、前代未聞の事件が起きてしまった。

3月8日、埼玉スタジアム２００２で行われた浦和レッズ vs サガン鳥栖において、レッズサポーターが掲げた「JAPANESE ONLY」の横断幕が差別表現に当たるとして、Ｊリーグは浦和に対し、ホームでの無観客試合（第4節、対清水エスパルス）という厳罰を科した。Ｊリーグ開始以来、初のことである。

同時に、浦和は当該のサポーター団体全員に浦和が出場する全ての試合において無期限入場禁止とし、観戦に訪れた浦和サポーターが横断幕や旗類を掲出することを禁じる措置を取った。

「残念！」というのが第一印象。横断幕を掲げた当人たちには、その意識は薄かったという。そこが歯がゆい。彼らもサッカーファンならば、国際サッカー連盟（ＦＩＦＡ）が昨年5月の総会で「反人種差別・差別に関する戦い」を決議し、“悪魔”（ＦＩＦＡのジョセフ・ブラッター会長による）の根絶に向けて強い姿勢を打ち出したことを知らなかったはずはなかったろうにと…。

近年、サッカーのシーンにはあってほしくない反スポーツ的行為がサポーターによって引き起こされる事例は多い。特に欧州では黒人選手に対する差別的言動が相次ぎ、それらに対して欧州連盟などは断固とした処置を取らなければ収拾がつかないところへきているようだ。

ピッチ上でのプレーで、よく「世界基準」と言われる。ピッチ外にも、もちろん「世界基準」はある。今回の場合でいうなら、反人種差別・差別に対して厳罰化の傾向にあるというのが世界基準、世界の潮流である。ブラッター会長は「悪魔を絶滅させるのは教育的問題。学校や家庭で教育できないのなら、スポーツがその役目を担わなければいけない」と話し、一方で「スポーツは万能ではない」との見解も示したという。

確かに、万能ではないかもしれない。しかし、その一助になることはできるのではないか。Jリーグも各Jクラブも、メディアも欧州での出来事をどこか対岸の火事と見てはなかったか。昨今、日本国内ではヘイトスピーチの急増も目立つ。そうした動きもにらみながら、もう少しきちんと向き合ってきていれば、サポーターといわずスポーツ愛好者への影響は少なからずあったのではないか。

今回のことが、たとえ一部の過激なサポーターによるものだったとしても、「残念！」というのは、そうした取り組み、報道が十分だったかどうかの反省がまず浮かぶからだ。サポーターだけの責任ではないだろう。

さて、22シーズン目に入ったＪリーグは、またまた新機軸を打ち出した。Ｊ３リーグの創設だ。Ｊ１の18、Ｊ２の22に11クラブが加わり、計50を超えた。ユニークなのはＪ1、Ｊ２に所属する22歳以下の選手で構成するJリーグ・アンダー22選抜の参加だ。各クラブが保有選手減、サテライトリーグの休止（2009年）などで若手選手の育成の場に苦慮してきた中でたどり着いた妙案（若手選手の出場機会を創出する諸施策は欧州では当たり前に行われているようだが）。与えられる舞台を有効に存分に使ってほしいものだ。

1993年、開幕にあたりオフィシャルガイドに「…結果としての勝負とは別に、おそらくは選手も関係者もそれぞれがそれぞれに、特別な思いを抱いて踏み出す一歩がある。その一歩が明日へとつながり、また明日へとつながっていく。ファンとともに築き上げていくJリーグが、願わくば、多くの人から祝福されるものになってくれることを祈りたい—」と書いた。多くの名シーンを思い浮かべつつ、その思いを新たにしている。

© J.LEAGUE PHOTOS

ファン・サポーターと共に築き上げていくＪリーグ（２０１３シーズンのＪ１リーグ戦第34節、浦和 vs Ｃ大阪）